

学校教育目標

よく考えて実行する杉本小の子
健康でたくましい杉本小の子
思いやりのある杉本小の子



海老名市立杉本小学校



学 校 便 り

令和8年3月4日
校長 奥泉 憲

卒業まで あと16日

昨日、6年生と在校生との「お別れ集会」が開かれました。1年生から5年生までの児童が、それぞれに工夫をこらした発表で6年生に感謝の気持ちを伝えました。1年生は、歌「いつまでもともだち」と6年生に教えてもらって出来るようになったことの発表、2年生は、呼びかけと運動会のダンス「睡蓮花」を披露、3年生は歌「にじ」と呼びかけ、4年生は得意のマツケンサンバの替え歌と呼びかけ、そして5年生は、6年生の1年間の歩みの紹介と歌「明日へつなぐもの」。発表しているどの学年の子どもたちの表情からも、この日のために、一生懸命に練習をしてきた様子が伝わってきました。何より素敵だったのは、各学年からの歌や踊りを手拍子等で明るく盛り上げてくれた6年生たちの姿勢です。もうすぐ卒業を迎える6年生へ一生懸命に感謝の気持ちを伝えようとした在校生たち、そして、それを見守る6年生たちの真剣で温かいまなざし。この一瞬のために、我々は日々子どもたちと向き合ってきたのだと実感する瞬間です。そして、会の締めくくりは6年生からの発表。1年生から5年生までの運動会でのダンスの披露と歌「変わらないもの」。一人ひとりの気持ちがこもったあの歌声こそが6年間の成長の証。

卒業まで、あと16日。カウントダウンの日々が続きます。 学校長 奥泉 憲

ほんの 一言が

私が、小学校時代に一生懸命に取り組んでいたのが水泳です。4年生の時に市内の水泳大会に参加したことがありました。種目は100M個人メドレー。レースは、4年生、5年生、6年生と一緒に泳ぎました。レース前、準備体操をしていると、同じ組で泳ぐ他校の6年生数人が、「あんなチビがいるよ」と話しているのが聞こえました。その声を聞いて、4年生だった私は、とても悲しい気持ちになりました。「あんなチビがいるよ」と言った6年生は、私を傷つけるつもりはなかったのかもしれませんが、それを聞いた私はその言葉がずっと心の奥に残りました。

この話には、続きがあります。レースで結局最下位だった私は、レース終了後、一人でシャワーを浴びていました。すると1位になった6年生がそばに来て、「まだ、4年生なのによくがんばったね。」と声をかけてくれたのです。その言葉がとても嬉しかったので、約50年以上も前のことですが、そのシャワー室での出来事を今でもよく覚えています。

「ほんの一言が人の心を傷つける ほんの一言が人の心を温める」という言葉があります。この文中の、「一言」を「行動」に置きかえてみましょう。「ほんの小さな行動が人の心を傷つけることがある、ほんの小さな行動が人の心を温めることもある」。相手を励ます「ほんの一言」や相手を思いやる「ほんの小さな行動」を大切にしながら、これからの学校生活を歩んで行ってほしいです。

学校長 奥泉 憲